



## 秋まき小麦 止葉期の追肥・管理について

小麦の生育は平年より10日早く、生育は早くなっています。

<秋まき小麦の生育状況 (5月15日現在)>

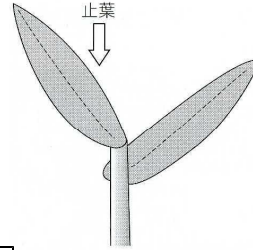
	起生期	幼穂形成期	止葉期	出穂始	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )
本年	3/18	4/17	5/15	—	46.7	952
平年	4/6	4/30	5/25	6/1	36.8	1,270
遅速	+19	+13	+10	—	+9.9	-318

止葉期頃の追肥は、粗原収量の確保と子実の充実、タンパクの向上につながります。特に「きたほなみ」は生育後半の追肥が効果的です。ほ場の茎数・葉色等を確認し、適期に追肥を行いましょう。

ジシアン (D d)、サミットコートなどの肥効調節型肥料で追肥を行っている場合も、ほ場の茎数・葉色等を確認し、止葉期頃の追肥を検討して下さい。

### ☆まずは止葉期を確認！

止葉期：止葉が完全に展開した茎が、全茎の40～50%になった日



### ☆今年のきたほなみの窒素施肥体系例

止葉期の上位茎 (m <sup>2</sup> あたり本数)	700本～900本	700本以下
施肥窒素量	2 kg/10a	4 kg/10a

★硫安1袋(20kg) = 窒素約4kg

★上位茎数 = 最上位展開葉の葉耳高が10cm以上の茎

茎数が特に多いほ場は、葉色と草丈を考慮して追肥量を加減して下さい。判断が難しい場合は、JA、普及センターへ相談して下さい。

### ☆倒伏軽減

#### 薬剤使用例

薬剤名	系統名	使用量 (/10a)	使用時期	使用回数
カルタイムフロアブル	プロヘキサジオン	150～200ml	止葉期～出穂始期	1回
エスレル10	エテホン	300～500倍 (333～200ml)	止葉期～出穂始期	1回

迷ったら散布しましょう！

### ☆病害防除

近年、赤さび病、葉枯れ症の発生が目立ちます（止葉が収穫頃まで持たず、収量・品質が低下しています）。開花期が多湿条件の場合は赤かび病や葉枯れ症状、乾燥条件の場合は赤さび病が発生します。以下の剤で、止葉期防除を必ず行いましょう。

薬剤名	対象病害	使用時期	使用倍率	使用回数
チルト乳剤25	赤かび病、赤さび病、葉枯症	収穫3日前まで	1000倍	3回以内

○●心に余裕をもって農作業を行いましょう！！●○